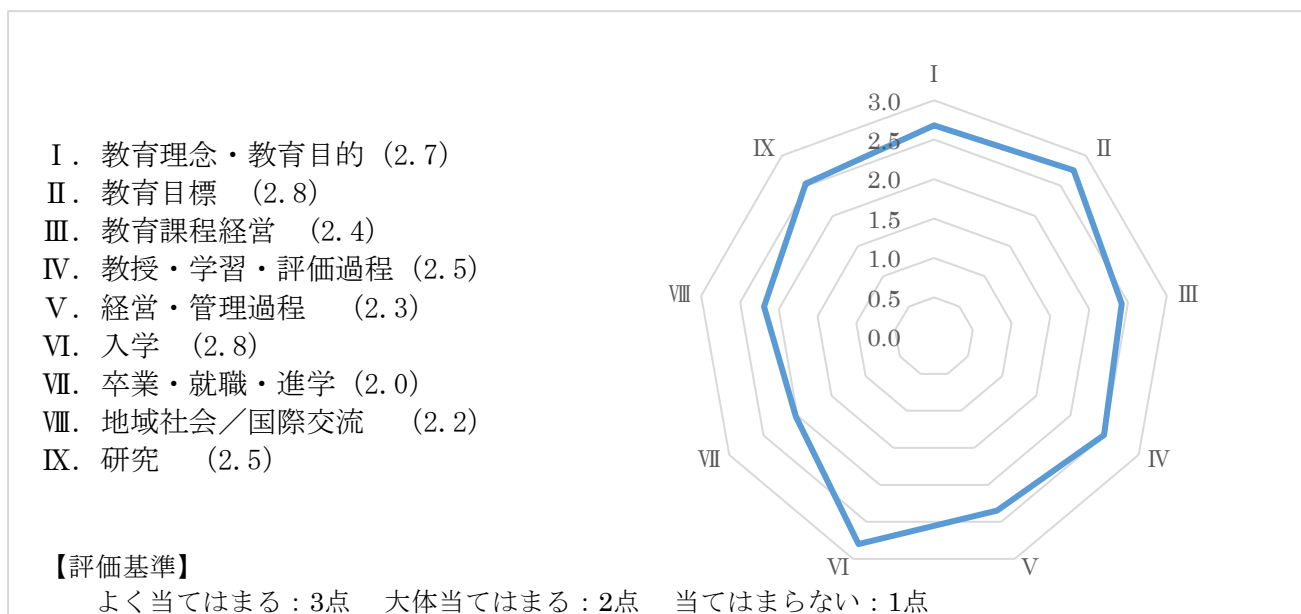


## 令和7年度 自己点検・自己評価集計結果



### I 教育理念・教育目的 (2.7)

教育理念および教育目的については、昨年度に引き続き、学生便覧において専門職としての姿勢や考え方を明確に示している。今年度も教職員全員で学生便覧の内容を確認し、教育理念・教育目的が教育活動全体の指針としている。

学生便覧は学生に配布し、入学オリエンテーション時に説明している。また、保護者にも概要を配布し、保護者会で説明することで、家庭との共通理解を図っている。

### II 教育目標 (2.8)

教育目標は、分野・科目・授業の目標と大きく矛盾しないように編成し、学生便覧に記載して周知している。卒業時の到達状況については、学科試験・実習評価・技術試験などを通して一定の把握ができており、教育目標との対応も概ね確認できている。一方で、学生自身による自己評価や卒業前アンケートなど、学習者の視点からの評価は十分に活用できていないため、今後はこれらの情報も取り入れ、教育目標との関連をより明確にしていく必要がある。

### III 教育課程経営者 (2.4)

教育課程は、教育理念・教育目的と整合しており、内容は妥当である。また、他の高等教育機関との単位互換体制を設けており、学生が実際に活用している。シラバスは全学生に配布し、学生便覧にも科目講師名や時間数、成績評価基準を明示することで、単位修得の方法が学生に分かりやすいようにしている。講義は、各教員が担当科目に責任を持ち、専門分野を生かしながら協力して進めている。

臨地実習では、各領域に責任教員を配置し、複数の教員が協力して実習指導を行う体制を整えている。実習前後には実習施設と指導者会議を行い、学生の学びを支える協働体制を維持している。実習後には目標の達成状況を共有し、意見交換を通して教育内容の充実につなげている。

一方で、講義・実習ともに複数教員で分担する体制であるため、専門性の一貫性をどのように高めていくかが今後の検討課題である。

#### **IV 教授・学習・評価過程 (2.5)**

教員は授業評価を通じて学生の意見を把握し、教授方法の改善に努めている。複数の教員が担当する演習では、月に1~2回の教務会議において指導内容や方法を検討し、教員間で認識をそろえながら指導を行っている。また、教員全員が学生数名を受け持ち、国家試験対策を含む学習支援に取り組んでおり、学生が学習を継続できるよう支援体制を整えている。

一方で、個々の授業における教授方法や学習を深めるための支援については、教員ごとの取り組みに差があり、全体として十分に共有されていない部分がある。授業内容の構成や指導方法、他科目との関連性について、教員間で情報を共有し、より体系的に検討していくことが今後の課題である。

#### **V 経営・管理過程 (2.3)**

本校では、学習環境の整備に継続して取り組んでおり、オンライン環境のほか、演習室・図書室・体育館・情報処理室などを学生が利用できるようにしている。また、学生支援として、公認心理師による定期的なカウンセリングを実施し、精神面のサポートを行っている。さらに、奨学金の紹介や、学校併設の寮費・食費の減額など、生活面の支援も継続している。

財政面については、限られた資源の中で学習環境を維持・改善できるよう、節約の意識をもって検討を行い、必要な整備を進めている。教職員も、本校の財政状況を共有しながら、可能な範囲で意見を出し合い、運営に反映できるよう努めている。

#### **VI 入学 (2.8)**

入学者選抜については、教育理念・教育目的との整合性を踏まえて運営会議で選抜方法を決定している。社会人入学試験枠を設け、多様な入学希望者を受け入れる体制を整えている。学校ホームページやSNSによる情報発信、募集要項の作成、学校訪問などを通して広報活動を行っている。また、オープンキャンパスを1回から2回に増やし、受験希望者が学校の特色を理解しやすい機会を拡充した。さらに、地域と連携した広報活動にも取り組み、学校の認知向上に努めている。

入学者数は定員に対して少ない状況ではあるが、昨年度と同程度の入学者を迎えている。入学試験内容についても検討を行い、看護を学ぶために必要な基礎的能力を確保できるよう、最低限の基準を維持しながら選抜の妥当性を保つよう努めている。

今後も入学者の推移を踏まえ、選抜方法や広報活動の在り方について検討を続けていく。

#### **VII 卒業・就職・進学 (2.0)**

卒業後の進路については、学生の希望に応じて就職や進学を実現している。今年度は助産師学校や保健師学校への進学者もおり、早期から学生の希望を把握し、進路選択を支援してきた。

卒業生の活動状況については、来校した卒業生や実習先に就職した卒業生からの聞き取りを中心に情報収集を行っているが、アンケート等の体系的な調査は実施していないため、県外など遠方に

就職した卒業生を含め、全員の状況を把握するには至っていない。実習病院とは必要に応じて情報交換を行い、得られた内容を今後の教育の参考としている。

## **VIII 地域社会／国際交流 (2.2)**

本校では、地域とのつながりを重視し、昨年度に引き続き積極的な交流活動を展開した。今年度は、地域の教育機関と連携を深め、本校学生が地域の児童へ向けた学びの機会を提供するとともに、児童を本校へ招いて生命に関する授業を行うなど、双方向の交流を進めた。また、地域の方々と触れ合える学校祭を開催し、地域のニーズを理解する貴重な場ともなった。今後も、地域に根ざし貢献できる学校として、より幅広い交流の在り方を検討していく

## **IX 研究 (2.5)**

本校では、周防大島町病院事業局内に倫理委員会を設置し、研究活動を行うための体制を整えている。今年度は、教員が学会発表を行い、研究活動に取り組む機会となった。教員は担当科目に関連する分野について自己研鑽に努めており、教育内容の充実に向けた学びを継続している。

一方で、研究活動については、教員全体としての取り組みの広がりはまだ十分とは言えず、研究に向けた意識を高めていくことが今後の課題である。